

四月五日 P 2F	四月五日 P 2F	四月五日 P 2F	四月五日 P 2F	四月五日 P 2F	四月五日 P 2F
天號作戦 YB東進	YB	大和花月 笑規			
GF電令作第六〇一號ノ×日ヲ	GF電令作第六〇一號 ヲ補填シ置カレ度	花月ハ奥雷二本宛至急各艦ニ供 給スベシ大和火發ニ隻使用	大和2nd各艦ハ加各艦ヨリ不足彈藥 ヲ補填シ置カレ度	GF電令作第六〇一號	GF電令作第六〇一號
無	無	無	無	無	無

四月五日 P 1YB	四月五日 P 2F	四月五日 P 2F	四月五日 P 2F
天號部隊 大和一部長 沖繩 高橋 第一方面軍 第二方面軍 第三方面軍	朝霜初霜 樞樞 樞樞	(工)	
GF電令作第六〇七號 帝國海軍部隊及六航軍ハ×月×日 降)全カヲ與テ沖繩周辺敵艦ヲ 攻撃撃滅スベシトス 陸軍飛行第八師團ハ右ニ協力攻撃 ヲ実施ス	朝霜初霜樞樞ハ他艦ハ重油移載 後徳山ニテ滿載後合同スベシ	當隊ヨリ朝霜初霜ハ八日黎明沖繩島 ニ突入シ定各隊艦ハ出撃準備ヲ完成 スシ不愛物件機密書類等ハ必要ノ最 少限ヲ残シ残留艦ニ移載スベシ	當隊ヨリ朝霜初霜ハ八日黎明沖繩島 ニ突入シ定各隊艦ハ出撃準備ヲ完成 スシ不愛物件機密書類等ハ必要ノ最 少限ヲ残シ残留艦ニ移載スベシ
無	無	無	無

四月六日 一〇三六	四月六日 〇九五六 GF 参謀長	四月六日 〇七五一 P GF	月日時發 初通電
2F 参謀	P YB P 2SD EB	P YB P 2SD 天二號依 沖根 大参謀部長	令 達 報 告 等
貴機密第。五二三番電 用電波	Y日八八日予定 島穴大入ス味方識別ニ印月忘スアリ度	海上特攻(大和矢矧)月型二隻機風型三隻 若葉型三隻)Y日夕刻豊後水道出撃予無 列島線西側ヲ経テY日極内密ニ沖繩 島穴大入ス味方識別ニ印月忘スアリ度	無

四月六日 〇四三一 P GF	四月五日 二二〇三 2F 参謀長	四月六日 〇四三一 P GF	月日時發 初通電
2F 参謀長	P GF P GF	P GF P GF	令 達 報 告 等
貴機密第。五二三番電返 連絡電波七四六。KC(三七三。KC) 使用暗號書表(アオ)四アテ六テニケ六)	貴機密第。五二三番電返 連絡電波七四六。KC(三七三。KC) 使用暗號書表(アオ)四アテ六テニケ六)	貴機密第。五二三番電返 連絡電波七四六。KC(三七三。KC) 使用暗號書表(アオ)四アテ六テニケ六)	無

六日トス

當面艦隊八八日黎明沖繩島ニ穴大入ノ  
予定ナル處七日二〇〇ヨリ直接貴隊ト連絡  
致度

使用電波暗號書至急知ラサレ度  
尚佐鎮部隊通信系七四六。KC 終殆特  
受シアリ沖繩島附近敵情(特ニ西方海  
面水上艦艇、動靜)但シ電波輻射防  
衛上了解出ササル事アリ念ノ爲

GF電令作第六一號  
一GF電令作第六。三號ニ依ルYB兵力ヲ  
大和及矢矧及駆逐艦八隻)ニ改メ  
海上特攻隊豊後水道出撃時機ヲYB  
指揮官所定トス

207

<p>四月六日 一三〇五</p> <p>□ IYB.</p>	<p>軍令部總長 佐吳鎮 □ GEB</p> <p>□ IAF</p> <p>□ SAF</p> <p>□ GF</p> <p>沖根 吳茂戰 九五一空</p>	<p>令達 報告等</p> <p>第一遊撃部隊行動予定</p> <p>六日一八〇〇豊後水道東水道出撃</p> <p>二〇〇都井岬、六六度一〇理</p> <p>七日〇三〇佐多岬</p> <p>一〇〇〇三一度一二分、二八度二五分E</p> <p>二〇三〇二八度二二分、二六度四一分E</p> <p>八日〇四〇〇沖繩島両方方面着</p> <p>海上特攻隊ノ行動ニ関聯彼我ノ艦艇ノ混淆 錯綜ノ豫期ナルヲ我々ノ飛行機ハ味方艦艇 ニ接近セサル如ク注意セシムルト共ニ右特攻隊 ノ兵力行動及艦艇ノ特徴等ヲ全塔乗員</p>
		<p>電</p> <p>無</p> <p>程別</p>

207

<p>四月六日 二〇一</p> <p>□ GEB</p>	<p>95192 参謀</p>
<p>□ 2F</p> <p>佐吳鎮 5AF各 95192</p>	<p>□ GEB</p> <p>佐鎮各 □</p>
<p>貴機答答、五〇三番電返</p> <p>索敵機及對潜直衛機共使用電波左ノ通、</p> <p>佐鎮部隊航空機六三四〇KC(エイ二七一)</p> <p>三二七〇KC(エイ一七一)</p> <p>佐伯航空隊六三二五KC(クレ三七)</p>	<p>晝間(八〇〇、一八〇、三〇、六三四〇、エイ二七一)</p> <p>夜間三二七〇KC(エイ一七一)</p> <p>電</p> <p>無</p> <p>電</p>

四月六日 一八三四	四月六日 一五一九 2F 参謀	
指宿基地 大村空基地	佐長各通 2F	
951 電令依第104號 11B 行動予定同部隊機密第061305番 電通 二 佐長保本隊ハ零水一直ニ機ヲ以テ0600	當艦隊六日1000以後長通信系ヲ去ル	ニシテ変化ヲ用方ニ偏在スル艦は自ヨリ全長ニ無 約(3) 煙突細高ク傾曲セス (二) 夕雲型六隻 艦橋前面砲塔一基ニシテ切立(砲塔ニ後 トナリ艦橋前面傾斜シテ是ニ二本煙突大 一番煙突ノ極メテ太ク艦橋ト間隔大 (二本共細長艦橋ト間隔小)
無	電	無

四月六日 一三三八 GF	
天號作 戰部隊 高参初長 P 11B 某八艦師	
秋月型ニ隻 極大ノ後方ニ偏曲セル獨特ノ一本煙突大	一 敵示徹底セシメ味方識別ニ関シ遺憾ナキ 様期ナシ度 二 艦艇ノ側方識別ニ當リテハ先ズ檣樓及煙突 二着眼スルモノトシ識別零矣左ノ通リ (艦型名隻数特徴) 順トシニ重枯丸内ハ其ノ 類似艦ノ特徴ヲ示ス (一) 大和 檣樓太ク艦中央稍後方ニ傾斜シ立 (細ノ直立) 煙突一本ニシテ檣樓トノ間隔大 (二) 矢矧 略扁平ナル甲板ニ檣樓及一本 煙突(艦中央ニシテ前有ヨリ後ニシテ立 (英巡) トランパー型(兩者同)

四月 三日 P 2F	三月 五日 一三 五	三月 七日 矢 刈 四七 〇	三月 七日 矢 刈 三〇 七	三月 五日 P 2F	三月 五日 P 2F	三月 五日 P 2F	三月 五日 P 2F
初霜		2F	2F	2F			
<p>左ノ電送信セヨ 宛天二號隊戰部隊戰斗速報第一號 四月七日艦攻艦爆ニ〇機以上ト交戦矢刈 奥宮二本命中航行不能大和奥宮爆 弾命中一驅逐艦涼月雪風以外全部沈 没又ハ大破</p>							
號	信	電無	電無	電無	電無	電無	電無

951f8	P GEB P 5AF	P 2F P 機
<p>一〇〇。有 機室被弾航行不能 機部全部被弾航行不能</p>		
<p>三月三日。逆直衛ヲ実施ス 三指宿派遺隊ハ「イ」哨区哨戒ニ任スル外 之ガ前路掃蕩並ニ直衛ヲ実施ス 四、大村派遺隊ハ「エ」哨区哨戒ニ任スル外 ハ「フ」哨区哨戒ニ任スル外 ハ「ヘ」哨区哨戒ニ任スル外 ハ「ニ」哨区哨戒ニ任スル外 ハ「ホ」哨区哨戒ニ任スル外 ハ「ヘ」哨区哨戒ニ任スル外 ハ「ニ」哨区哨戒ニ任スル外 ハ「ホ」哨区哨戒ニ任スル外</p>		

一九三七 初霜	一九四五 冬月	一九三〇 初霜	
冬月	初霜	冬月	
一冬月損傷狀況轉輪二部針受破壞	涼月ヲ護衛シテ心任テ六時ニ同ク	見エズ	涼月見エルヤ

一 右部至近彈ニ依リ浸水アリ  
 二 進路概ネ北東後進原速ニテ佐吉保  
 三 向ニ予定  
 四 五視界内磯風ハ片舷原速ニテ航行可能  
 五 七傾斜大ナル為ニ日下停止  
 六 應急處置中

一七三〇 涼月	一七三〇 初霜	一五〇〇 M 17dg	一四一七 初霜
冬月 口口 口口 口口	各艦	口口 5Afl	天二號 作戰部隊
一 艦橋ヨリ前部大破目下消欠中 二 一ニ號モ使用不能	一 二四ヨリ男女群島ノ南八〇哩ニ於テ敵 次ニ且リ敵大編隊ト交戦 二 戰果 敵機撃墜 三 被害	司令官救助セリ 機風機軸室浸水出シ得ル最大速力一節 電氣関係全部破損傾斜一五度次第 ニ増大シテアリ一先ズ北方ニ避退ス	大和更ニ雷撃ヲ受テ誘爆瞬時ニテ沈没 セリ 電
	號信	電	電

二三四日 41dg	二三四日 41dg
涼月 25d	佐二廠長 佐病院長 GPR參謀長
一貴機密第〇七三番艦 付至急二再送セヨ 二現在ノ位置針路速力ハ如何	砲配電盤破壞意欲所使用不能 爆彈機銃ニ依ル小破口多敷 二機助收容員數約六〇名(大和天胡霞) 丸入院ヲ要スル者三〇名(冬月ヲ合ム) 三冬月 明八日〇六〇〇入港ノ予定入港 後直今ニ收容人員受取入院方手配 ヲ得度

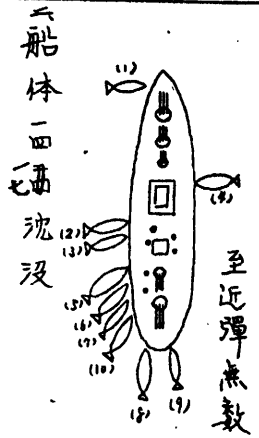
一 戦果

第五 戦果及被害

二 被害

(1) 敵機撃墜機數 確認セテ一九機(沈没艦ノ分ヲ含メズ)  
 (2) 海上特攻隊、敵機動部隊艦上機吸收ニヨリ友軍航空部隊  
 攻撃成功ニシテ戦果發揚ニ資スリ

大和 ヲ司令 ヲ合ム	艦名	二被彈及被害情況	記
二船体二四五沈没	被害	至近彈着數	第二艇隊司令長官 伊藤整一海軍中將戦死





41 d 8

月

涼

一 戦死 二名 (内准士官以上一名)  
 戦傷 一名 (内准士官以上一名)  
 一 爆弾 (二五〇班) 直撃一  
 一 一、二番砲塔大破火炎七番ボム  
 以前大部分浸水  
 一 後部右舷至近弾一ヨリ若干  
 浸水  
 一 被弾一情况  
 一 戦死 五七名 (内准士官以上一名)  
 戦傷 三四名



一 後進強速黒ニヨリ速推度高  
 一 修理一約三月ヲ要ス

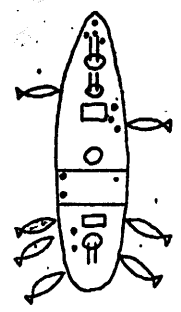
冬月

ヲ含ム

25d 司令部

夫知

一 船体七四〇五沈没  
 一 戦死 四六名 (内准士官以上二名)  
 戦傷 一三三名 (内准士官以上一名)  
 一 ロケット弾一命中 (盲弾)  
 一 主砲塔令所轉輪中破  
 一 一五室內侵入海水管破損



一 戦死 生存者 五七名 (外全員戦死)  
 戦傷 一七名 (内准士官以上四名)  
 一 被弾一及被雷情况


修理一週間ヲ要シ  
 四月五日以後全カ發揮  
 一 支障一ナシ





214

213

21 dg

度	朝霜	風 雪
<p>二戰死 一〇〇名 (内准士官以上五名) 戰傷 四五名</p> <p>一至近彈及機銃掃射より機銃一 大破主砲切斷電路故障 二戰死 三名 戰傷 五名</p>  <p>彈庫漏水</p>	<p>分難行動中ニテ敵機上攻撃 中庵ヲ發信後消息不明船体 沈没給員戰死ヒルト推定ス</p> <p>一直垂及至近彈ノ後ニ岳室全部浸水 二被彈ノ情況</p>	<p>修理期間一週間ニテ 全力發揮ニ支障ナシ</p>
<p>地点 三〇度五二分北 二七度五七分東</p>	<p>人員及至月ニ移載ノ上七日五七 處分ス</p>	<p>准士官以上一八名 下士官 兵 三二名</p>

1 dg

風 浪	風 磯
<p>二戰死 二〇名 (内戰傷九名) 戰傷 五四名 (内准士官以上一名)</p> <p>一直垂一彈より航行不能 被雷一三音ニ四八船体切斷沈没 二被彈及被雷ノ情況 地点 (三〇度四七分北 一八度八分東)</p> 	<p>一至近彈より機銃室満水航行不能 被彈ノ情況</p> 
<p>修理期間一週間ニテ 全力發揮ニ支障ナシ</p>	<p>雪風 人員形載ノ上 七日二四〇砲臺處分 地点 (三〇度四六五分北 一三度九二分東)</p>

21  
21

第七 功績

豫定作戰ヲ實施スルニ至ラザリシモ全軍結束海上特攻隊  
トシテ敵艦上機群ヲ攻襲ラ吸収邀襲其ノ十九機以上ヲ撃  
墜數十機ヲ撃破セル外間接的ニ味方航空特攻ヲ推進  
シテ其ノ戰果ヲ擴大セシムル等全般作戰ニ寄與セリ

第六 我カ兵カノ現狀

冬月 四月二十日以後 全力發揮可能  
涼月 五月五日以後 保安確泊可能  
雪風 徹底修理ニ約三ヶ月ヲ要ス  
四月十五日以後 全力發揮可能  
初霜 全力發揮可能

初霜	戰死 三名(内注記以上一名) 戦傷 聖名一名 戰傷 聖名一名
被喜ナシ	戦傷 聖名一名 戦傷 聖名一名

策第八 戰訓

一 用兵一般

(1) 制空權ヲ有セザル艦隊ノ脆弱ナルハ既ニ<sup>ニ</sup>山沖海戰以來幾度カノ戰  
闘ニ於テ實證セラレタル處ナリ故ニ此レガ使用ニ當リテハ特ニ右ノ要ヲ  
慮スルヲ要ス

(2) 完全ナル制空權ヲ確保シ得ザル<sup>場合</sup>モ突入迄強カナル直衝機ヲ附シ  
勢力ノ保存ヲ期ス

(3) 糧力天象ヲ利用ス

(4) 航空作戰<sup>初</sup>至輸送作戰ノ牽制ニ使用ス

之ヲ要スルニ作戰ハ飽ク迄冷靜ニシテ打算的ナルヲ要ス徒ニ特攻隊ノ  
突名ヲ冠シテ強引ナル突入戰ヲ行フハ失<sup>ハ</sup>處大ニシテ得ル處甚ダ  
少シ

(5) 作戰準備(整備ト訓練ト)作戰方針ハ合致セシムルヲ要ス

0421

218

217

甲ノ水上艦艇ノ使用方針ト中央ノ艦艇整備方針並ニ配員合致  
 セザリシ爲今又突入作戰ニ於テハ整備不充分ナリシコトヲ示ス訓練  
 モ殆ド實施スルコトナク出撃スルノ已ムナキニ至レリ  
 即チ水雷戰隊ノ工事ハ緩急順序第五位ト定メラレテ工率進  
 捗スル配員モ訓練ヲ積ミタル者ハ交代シ驅逐艦砲術長ニシテ射  
 撃ヲ實施セザル者數名アリシ情況ナリ  
 艦隊トシテハ低速力ニテ對雷撃及爆撃回避運動ヲ實施セル外  
 三四ノ戰務因演ヲ實施セルニ過ギズ  
 突入作戰等極度ノ機密ヲ要スル作戰ニ於テハ豫メ計畫準備ヲ  
 完成シ電報一本ニテ即應シ得ル對勢ニマルヲ要ス  
 天一號作戰ニ於テハ突入戰ハ實施セラレザル方針ナル處突然之  
 實施ヲ下令セラレタル爲燃料搭載出撃準備等戒要領等ニ  
 關シ電報量ヲ減消シ我が企圖ヲ察知セラレタリト認メラルルニ及

特攻部隊使用當否如何ニ九死ニ一存ノ作戦ヲ行フモ目的是達ニ至ラズ最モ合理的ニシテ且  
 自主的ニ行動スル細密な計畫ヲ極力戒除スル作戰ノ實施スル要アリ思ヒ附的戰或ハ政略  
 的作戰ニ屬シ貴重ナル作戰部隊ヲ死セシメザルコト特ニ肝要ナリ  
 作戰實施當否ハ協同作戰上適當ナル規制アル當然ナルベキモ各部隊ノ實情ヲ考メ、  
 達成スル目的、明示シ貴重艦隊ノ敵情並ニ天表地表等ノ狀況應ジ相當豫量ヲ録  
 地ヲシテ要アリ  
 今次海上特攻部隊ノ作戰目的ガ航空攻撃ヲ容易ナラシムルモノヤ航空部隊  
 ノ士氣昂揚ヲ爲スルヤ或ハ三十二軍ノ總攻撃等ニ策應スル爲メヤ明確ナラザリシ  
 點アリシ爲行動決定上判断ニ迷ヒタリ

10240  
219 6250  
220

(一) 將來水上部隊ヲ特攻部隊トシテ使用スルニ於テハ隊ノ其ノ使用方針ヲ

明示シ計畫準備ヲ進メ訓練シ置クヲ要ス

(二) 航空部隊ト水上部隊又要地防備部隊トハ更ニ緊密ナル連絡ヲ

採ル必要アリ

(三) 大隅海峡西方海面ニ於テ味方輸送部隊(大島ヨリ歸還中)ヲ敵部

隊ト誤リタルコトアリ

(四) 喜界島ヨリ敵艦上機百機以上北上ストノ情報艦隊ニ入手達レテ

ニ敵ノ戦法

(一) 合田ノ敵機ハ明ラカニ艦隊ヲ目標トシテ雷爆併用特ニ雷撃子機ヲ多敷使

用セリ先ヅ急降下爆撃ヲ以テ我對空火器ヲ制壓シタル後雷撃機尙

時來襲セリ

(二) 艦上機群ハ先ヅ艦隊確認後視界外ニ去リ包圍對峙ヲ經テ機ヲ見テ

同時二枚射セリ

- ① 日下ト彈ヲ併用セリ 冬月ニ彈命中セリ(首彈)
  - ② 我ガ射彈ヲ受ケルハ照準不良ナルモノ多シ
  - ③ 敵機ノ防彈並ニ消火装置ハ更ニ完全トナルモノ如シ
  - ④ 雷撃機運動ハ巧妙シテ雷撃ノ技柄ハ從前ニ比シ進歩モト認ム
  - ⑤ 雷撃射兵三〇〇米至一〇〇〇米ナリ雷速ハ三〇節附近ト推定ス
- 三砲一術
- ① 二水戰各艦ハ環型照準器ヲ換裝後間モナク照準訓練不足ノ儘ニ出撃セリ
  - ② 對勢観測等ハ真ニ至難ナルトニ属スルヲ以テ常住坐臥訓練ニ精進シテ
  - ③ 哨燈彈雨ノ中ニ於テモ尚照準ヲ誤ラザル域ニ達スルヲ要ス
  - ④ 二十五糎機銃彈丸ノ威力ハ少シカナン信管改造カ四十糎機銃ニ換裝ヲ要ス
  - ⑤ 今次戦斗於テ明ニ命中彈ヲ確認セシモ擊墜シ得ザルト多クカキ

又撃機艦ニシテ掩護射撃ハ効果少シト一部ノ所見アルモ  
 今回涼月ハ大和ノ掩護射撃於テ機銃ニヨリ一機主砲ニヨリ  
 一機ヲ撃墜セリ

① 偵探ニシテ射撃ヲ可能ナル如ク速ニ兵器改善ノ要アリ  
 理由

- ① 今次戦斗於テハ雲低ク敵機發見遅シ射撃時間少ク  
 砲力ノ發揮亦充分ナラザリキ
- ② 現在ノ測巨儀ハ測手ノ精神的影響大ナリ即チ精神的  
 誤差ヲ零ナラシム爲メ最新科學的ニ實測兵器ニシテ射撃手  
 ノ實施モアルベカラズ
- ③ 機銃群乃至小隊毎ニ主砲ノ藥莖ヲ吊下ゲ「打方始メハ當  
 打方止メ」ハ藥莖ヲ叩キタル處指揮上極メテ有効ナリキ
- ④ 今次戦斗際煙幕ヲ展張セシ或ハ有効ナリシ非ズヤト



思考ス研究ノ要アリ

(1) 矢矧型主砲ニ於テ多敷機ト交戦ヲ予期スル時ハ予分火シオクヲ可トス

(2) 矢矧型六砲術長ガ高射長ヲヤルヲ可トス

(3) 初霜ニ於テ指揮所中継所間連絡用ラゴヲ假設セル所指揮上有効ナリ

### 四通信

(1) 作戰上相策應スベキ各部隊間通信ハ最緊密ナラシムル要ス

而シテ策應部隊ニ水上部隊ヲ含ム場合特ニ然リ之ガ爲テ諸項留意ノ要アリ

(2) 水上部隊發信専用通信系ヲ一設特定スルヲ可トス

(3) 今次通信計畫

(A) 甲種艦船一艇短波  
(B) 甲種艦船一艇短波  
(C) 甲種艦船一艇短波  
(D) 甲種艦船一艇短波

(8) 其他一般通信ハ艦所通信系若ハ共用艦船短波及甲種艦船一艇短波(狀況ヨリ甲種艦船旗艦短波併用)

ナリシトコ送信艦駆逐艦トナル戦半後半ニ於テ發信

電報ノ遅達不達通達不如意等ハ各艦具體驗セルトコナリ

(2) 専用通信電波策定場合ニテ着意ヲ要ス

(A) 対謀防衛(妨信回避)上常用電波ト異ナラシムルヲ可トス

(B) 電波精度保持上水晶片ニ電波ヲ選ブラ可トス

(C) 電波到達狀況良好ニ電波ヲ選ブラ可トス

(3) 専用通信系錯綜セル場合ニテ應急対策トシテ他ノ予備通信系ニ依ル如ク豫メ其ノ順序等ヲ通信計畫指示シアルヲ可トス

(一) 水上部隊の内容駆逐艦以下、小艦艇より通信施設並ニ  
 練度充分ナル現狀ニ於テ簡明確實ナル通信計画  
 策定ト重點明示ハ絶対必要ナリ

(二) 通信速達ハ水上部隊本質ヲ理解セ陸上部隊及通信  
 機關積極的全幅協力ニ俟ツ

(三) 航空戦ヲ主体トシ作戰ニ於テ水上部隊ハ敵ハ航空攻撃  
 對シ陸上ハ本質的ニ其強度ヲ異ニシ進退度ニ合スヤ  
 否ヤ一情報通達一瞬ニ遲速ニ関スルコトアリ

(四) 通信力ハ脆弱ナル亦陸上機關ノ比ニテラス

(五) 陸上通信機關ハ前項水上部隊通信ノ待受ニ最優秀  
 員ヲ配ス

(六) 水上部隊進退ト密切ナル關係ヲ有ス作戰命令等陸上  
 部隊ニ於テ信覺令トシテ發セラルル場合有線系ニ依ル

信號(電話)命令ヲ主トシ水上部隊ニ通達スベキ無線(覺令)ヲ  
 次等視ケル傾向ナリトス

(七) 前號ニ兩聯對謀防衛上戰術時、使用ヲ制限サルル爲通達  
 ニ貴消時ヲ要セル事例アリ

(八) 綜合敵情、戰果速報、残存敵兵力、情況判断

決心等陸上ニ於ケル綜合ハ水上ニ於ケルヨリ遙ニ容易迅速且  
 適確ナルベキヲ以テ之ガ水上部隊ハ速達ハ緊要ナリ

今次作戰ニ於ケル天候敵情速報等極メテ有効ナリ

(九) 對敵通信ハ計画訓練實施及兵器改善共ニ更ニ大規模ニ  
 推進ノ要アリ

(一〇) 航空攻撃ハ水中攻撃共ニ特攻化ノ今日以後作戰指導ノ  
 根柢ヲ成スベキ戰果確認(推定)上敵信(電話)傍受ハ  
 極メテ有用ニシテ水戰司令部附員ニ名(特話)少尉三名

(持信)取得状況ニテモ我攻撃成果又敵企図一部ヲ窺知シ得タリ

(二)四月七日敵飛行艇觸接ヲ受ケル際大和直チニ妨信セルモ矢矧ヲ鑑査セルトモ若干周波數差アリ妨信初期ニ於テ其効少カリキ

事前戰務圖演ニ於テ矢矧妨信準備ヲ行シタル際周波調定ニ十分弱ヲ要セリ

本作戰通信計畫ニ於テ「妨信ハF170指導特令ヨリ各戰隊旗艦ヲシテ實施セシムルモトス」

各隊(艇)ハ情況特ニ有効ニシテ且緊急ヲ要スト認メテ場合ハ獨斷之ヲ實施スルヲ得此場合速カニ報告ヲ要ス

ト是ラレアリタルモ實施ニ於テハ機ヲ逸シタリ

有効ナル大和裝備ハ使用無キニ至テ朝霜裝ハモハ結線差ヲ後殆ド調整、餘裕ナクシテ出撃ニ為利用シ得ザリキ

尚雪風ニ於テモ測角側ニ轉換スルニ感ニ弱至三ノ低下アリ受信可能ニテ測角不能ニ場合少カラズ之ニ比シ三型探知機

(種波送探)ハ有効ニ使用セリ

い應急通信

(一)大和通信力ハ豫想外ニ脆弱ナリキ其ノ實情原因調査ニ由リキモ情況左ノ通

當時ノ配備 中波ニ波超短波一誌

(2)一三ニ五初霜ニ對シ通信代行ヲ下令初霜代行ニテF170戰斗速報第一號(發令時刻一三五〇)ヲ發信一六五五依通了解セリ

(二) 冬月(口)多ト彈直撃ニ其(他)被銃撃(雪)風初(霜)何(レ)至(近)彈(ハ)何(レ)モ(空)中(線)線(異)狀(ナ)リ(涼)月(前)甲(板)被(彈)大(破)ニ(依)リ

空中線全部落下セリ

(三) 涼月(前)部(電)信(室)火(災)時(暗)號(書)於(十)四(ヲ)取(出)シ(得)タル(ノ)ミ

ナリ(爲)後(部)電(信)室(ニ)テ(受)信(セ)ル(電)報(モ)翻(譯)シ(得)ガ(リ)シ(モ)アリ

タリ(應)急(準)備(上)人(員)暗(號)書(ノ)全(散)取(備)ヲ(適)切(ス)ル(要)アリ

(二) 驅逐艦(通)信(長)職(務)執(行)者(航)海(長)及(乘)組(通)信(士)通(信)指(揮)能(力)大(ニ)シ(テ)期(シ)得(ズ)之(ガ)教(育)訓(練)ノ(要)アル(ハ)勿(論)ナル(モ)之(ニ)

全(幅)倚(存)シ(得)ズ(毎)真(情)並(ニ)今(後)水(上)部(隊)ノ(主)兵(ガ)驅(逐)艦(以)下(ト)

ナ(レ)ル(趨)勢(ニ)着(目)取(扱)調(整)容(易)ニ(シ)テ(信)頼(度)大(ナル)兵(器)ノ(整)備(ノ)

及(以)間(單)ニ(シ)テ(確)實(ニ)通(信)計(畫)策(定)並(ニ)之(ニ)基(ク)及(覆)強(練)

ヲ(以)テ(毎)真(効)ヲ(期)ス(ル)ヲ(要)ス

(三) 今(次)戰(斗)中(自)航(發)信(ガ)如(何)ニ(電)波(ニ)テ(送)信(サ)レ(ル)ヤ(知)ラ(レ)

(四) 自(航)後(部)電(信)室(ニ)係(電)話(ノ)裝(備)シ(テ)知(ラ)ザ(リ)シ(通)信(士)アリ

(五) 空(間)錯(綜)セ(場)合(先)順(位)ヲ(爭)ヒ(交)信(員)ガ(独)斷(指)定(ト)至(急)レ(ヲ)

「作(緊)ト(セ)艦(ア)リ」

(四) 電(話)不(達)ト(ナル)際(ト)輕(便)電(信)機(ノ)使(用)ニ(着)意(セ)ザ(リ)シ(通)信(長)

五、運動

(一) 雷(撃)手(ニ)對(シ)テ(ハ)雷(撃)手(機)ヲ(避)ケ(ザ)バ(間)ニ(合)ズ(而)シ(テ)雷(撃)手(機)ノ

觀(破)ス(ル)義(ナ)リ

(二) 雷(爆)同(時)來(襲)ニ(先)ズ(雷)撃(手)機(ヲ)避(ケ)ル(ヲ)要(ス)雷(撃)手(機)ハ(一)發(シ)

致命(傷)ト(ス)ル(爆)撃(手)機(ハ)命(中)率(少)ナ(リ)被(害)亦(少)シ

(三) 見(張)員(操)艇(者)ト(操)艇(員)ノ(連)繫(ハ)最(モ)重(要)ナ(リ)之(ヲ)大(イ)ニ

訓(練)シ(テ)必(要)アル(ト)共(ニ)三(者)間(ノ)通(信)裝(置)ハ(間)然(ナ)カ(ラ)シム

ル如ク工夫施設ノ要アリ

六防禦

ハ涼月型ニ於テハ中部ニ吐水口少シ増設ノ要アリ

ハガソリンポンプハ氯化器ノ簡單ナル改造ニ依リ代燃ニテ作動シ得(矢矧)

ハ豫備負雷格納庫及發射管ニ付テ「マントレット」ヲ施シアリタル處發射

管ニ三發負雷格納所ニ七發ノ機銃彈命中セルモ何レモ反撥セリ極

(涼月)

メテ有効ナルモノト認ム

ハ戦闘服裝ハ上衣ヲ「スポン」ニ包ミ置クヲ要ス准士官以上ハ雨衣ヲ着用

スルヲ可トス

(磯風)

ハ無電池電筒有効ニ使用セリ

(矢矧磯風)

ハ可燃物ヲ極力陸揚セル爲メ火災起リ難カリキ

ハ被害時ノ探知ハ仲々困難ナリヨク研究訓練シオクヲ要ス

七機関

ハ艦隊速力ニ二節巡航運轉中朝霜ハ會敵約ニ時間前ヨリ艦巡航ヲ

(一) 減速装置溫度過昇シ(溫度不明)巡航「タービン」ヲ高脱セントセシニ  
 高脱ニ約五時間ヲ要スル應急作業トナリ(同艦ヨリノ信號報告ニ依ル)解列シ  
 艦隊ノ視界内航行中對空戦闘トナリ遂ニ行方不明トナリ  
 同艦ノ機作戦以來巡航「タービン」減速装置ノ音響大ナリシ爲今次出  
 撃前兵工廠ニ於テ減速装置ノ中心検査ニ片當リ部分ノ摺合ヲ施行スリ  
 今回ノ故障ノ原因ハ絞上ノ工廠修理ノ不具合ニ依リ減速装置焼損シ  
 ルガ如ク信號報告アリタルモ左ノ諸項ヨリ判断シ脱接手部ノ故障ト認ムル  
 (既ニ出撃後約一昼夜ノ巡航運転ヲナシ減速装置ノ摺合良好ナリシト若溫度  
 上昇シタルトモ既ニ主運転ナルベシ) 前報  
 (二) 同部軸受溫度上昇ニ関スル來艦ナシ(現月機関長ニ依ル)  
 (三) 兵廠ノ修理ノ順調ニ進捗ス  
 (四) 脱接手部ノ故障トスレバ巡航ノ高脱作業ニ約五時間ヲ要ス  
 (五) 減速装置焼損ニハ直ニ巡航ヲ高脱シ得ル苦ナルニ高脱出來ザリシト

尚同艦准士官以上ノ出撃前ノ機関整備ニ対スル熱意ハ司令部ノ助言ニ  
 對シ極メテ依調ニシテ工廠ニ全ク依存シ居リ今回ノ機関故障ノ原因ハ自  
 己ト生死ヲ共ニスル機関ニ對スル整理操縦ノ不熱意ニ依ル  
 トコロナルニアラサルカ

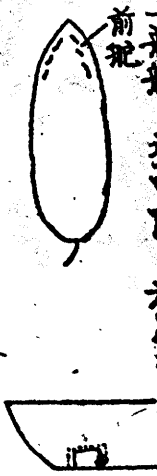
(一) 運転幹部ハ機関ノ經濟運転ガ即機関効力ノ最大發揮ニアルトモ銘肝  
 シ整理操縦ニ邁進スルヲ要ス  
 (二) 會敵ヲ豫期スル場合ニ於テモ中速力以下ノ航行「タービン」ハ巡航運転且  
 探信ヲ妨害セザル如ク使用罐ヲ選定スルヲ要アリ  
 (三) 大豆油ハ冬月ノ使用実績(横須賀機関學校ニ報告済)ニ依リハ機関効率  
 亦定汽曠諸元ニテ使用シ差支ナシ  
 (四) 左記ノ場合機関員ハ出來得ル限リ艦内各部ニ分散ヲ要ス  
 (五) 碇泊中配置ニ就ク場合(機関室ハ一直配員ニテ可)  
 (六) 總員退去アリタル場合





の現在艦橋防空指揮所は不足殊に夜間指揮見張等全部  
防空指揮所は行方不明の故に要人飛行機は探検席より風房  
式トス可トス

水上艦艇、旋回圈を極小にする為速に前舵を附る必要あり



前部揚筒機の使用に出入可能ナル如ク計画ス

(終)

機密第一遊撃部隊命令 第八號

昭和二十年三月二十日 旗艦大和

第一遊撃部隊指揮官 伊藤整一

第一遊撃部隊命令

第一遊撃部隊電波哨戒班則別紙通定メ之ヲ試行ス

附令

昭和十八年機密遊撃部隊命令第十三號ハ  
之ヲ廃止ス

(終)

機密第一遊撃部隊命令第八號別紙

第一遊撃部隊電波哨戒準則

一 第一遊撃部隊ニ於ケル電波哨戒ハ聯合艦隊電波哨戒準則ニ基キ本準則ニ依リ之ヲ行フモノトス

二 電波測定の各艦單獨實施シ電波哨戒ハ概ネ信務通過距離内ハ集團行動スル部隊毎ニ統一實施スルヲ

例トス

三 電探電波管制

(1) 管制標準

探信戰鬥管制	夕セカ	爲最嚴重ナル敬言戒ヲ	電波輻射ヲ禁ズ
管制種別	同上略稱	適用スベキ時機	管制要領



